

令和7（2025）年度

福祉サービス第三者評価結果報告書

# メリー★ポピンズ 中板橋ルーム

特定非営利活動法人 福祉総合評価機構

1	<p><b>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</b></p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>1) 「にんげん力」を身に付けるために必要な遊び・野外体験を提案実践し“自分で考え、行動する思考”を育みます。 2) 10よりも100の経験を与え、子どもが“したいと思う活動”を安全に行えるように見守り、支援してゆきます。 3) “感じたこと・考えたこと”を言葉でジェスチャーで、表情で、描いて、造って、表現できる子どもを育成します。 4) 「0を1にかえる力」を日本中の子どもたちにつけ、物事を投げ出さずに向き合う若者が社会を支える世の中を創ります。</p>
2	<p><b>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</b></p> <p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育現場で求める人物像 現状に満足せず自己の成長を常に意識している人 やって見せてあげて背中であげてゆける人 より良い保育を目指して創意工夫していける人</li> <li>・社会人としての質向上 忙しさや大変さを表情や口調に出さず、いつでも笑顔心がける。お願いします、ありがとうございます、など仕事での言葉遣いに注意し、正しい日本語を身に付ける。子ども全体を見て自分が今、何をすれば良いのかを判断して、自ら行動したり、提案する。</li> </ul> <p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育士としての質向上 子どもの命を預かる重みを自覚し、守らなければいけないことを遵守し、常に平常心で子どもと接する。後輩には自分の知識を教え、育てる気持ちを持ち、一人ひとりがリーダーになるという気持ちで責任を持って保育を行う。</li> </ul>

調査対象

調査開始時点での当園の利用世帯11(在籍児童数14)を対象として実施した。なお、兄弟姉妹がいる世帯は1世帯として扱った。

調査方法

調査票及び調査項目は共通評価項目に準拠した。ウェブアンケート形態により実施し、回収は保護者から評価機関への直接電送(外国語世帯のみ調査票の直接郵送)にて行った。結果は選択式・自由記述とも園に報告し、自由意見には回答者の匿名性に配慮した処理を適宜行った。

利用者総数	14
利用者家族総数(世帯)	11
共通評価項目による調査対象者数	11
共通評価項目による調査の有効回答者数	11
利用者家族総数に対する回答者割合(%)	100.0

利用者調査全体のコメント

総合的な満足度は「大変満足」72.7%・「満足」27.3%の計100%と高い値で、設問別でも「発達に配慮した保育活動」「子どもの興味・関心の伸長」「食事」など、全17問中はいずれも80%台～100%の高い支持を得ている。総合的な感想では、「散歩が多く体力がつくだけでなく、交通ルールも学ぶことができ、お迎えに行くと、その日の出来事をたくさん教えてくれ、予約や連絡帳はアプリで便利である」「晴れた日は外遊びや水遊びをしてくれ、食育に力を入れているところもよい」「屋外遊びでの土とのふれ合いがあることが気に入っている」「園での食育を通して、食や野菜への興味が出ている気がする」「少人数のため、一人ひとりに目が行き届いているように感じる」「お迎えが予定より早くなったり、遅くなっても柔軟に対応してくれ、体調不良などで連絡があっても、何度もお迎え要請がないので、安心して仕事ができる」との称赞・感謝の声が寄せられており、要望などの意見は見られなかった。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	11	0	0	0
実質的な満足度(「無回答・非該当」を除いた割合・以下同)は、有効回答者11人全員(100%)が「はい」と答えている。 自由意見には「散歩が多く、体力がついた」「園での活動や同年代の子との交流を通して、いろいろな刺激を受けているように感じる」「あまり食べることが好きではないわが子だが、保育園の食育のおかげで野菜が大好きになり、保育園でもよくおかわりをしているようでうれしい」の3件が寄せられている。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	11	0	0	0
有効回答者11人全員(100%)が「はい」と答えている。 自由意見には「年齢に合った活動をしていると思う」「感覚遊びや外遊びを多く採り入れていて、自然にふれ合える機会を多く作ってくれてありがたい」の2件が寄せられている。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	11	0	0	0
有効回答者11人全員(100%)が「はい」と答えている。 自由意見には「自分たちで育てたものを食す機会もあり、とても楽しそうである」「自宅で好き嫌いがあっても、園ではいつもおいしく完食しているようだ」の2件が寄せられている。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	11	0	0	0
有効回答者11人全員(100%)が「はい」と答えている。 自由意見には「毎日外遊びの時間を採り入れてくれている」「夏場は難しいが、それ以外の季節は毎日たくさんお散歩に連れていって くれているので、歩く力がついた」の2件が寄せられている。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	10	0	0	1
有効回答者10人全員(100%)が「はい」と答えている。 自由意見には記入がなかった。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	11	0	0	0
有効回答者11人全員(100%)が「はい」と答えている。 自由意見には記入がなかった。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	10	0	0	1
有効回答者10人全員(100%)が「はい」と答えている。 自由意見には記入がなかった。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	10	1	0	0
「はい」が90.9%、「どちらともいえない」が9.1%となっている。 自由意見には「いつもお迎えの際にその日の様子など話してくれて、こちらの話も聞いてくれて助かっている」の1件が寄せられてい る。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	11	0	0	0
有効回答者11人全員(100%)が「はい」と答えている。 自由意見には記入がなかった。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	11	0	0	0
有効回答者11人全員(100%)が「はい」と答えている。 自由意見には記入がなかった。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	10	0	0	1
有効回答者10人全員(100%)が「はい」と答えている。 自由意見には記入がなかった。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	7	1	0	3
「はい」が87.5%、「どちらともいえない」が12.5%となっている。 自由意見には記入がなかった。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	11	0	0	0
有効回答者11人全員(100%)が「はい」と答えている。 自由意見には「よく様子を見てくれていれ、親が知らないことも先生が知っていて、共有してくれる」の1件が寄せられている。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	10	0	0	1
有効回答者10人全員(100%)が「はい」と答えている。 自由意見には記入がなかった。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	11	0	0	0
有効回答者11人全員(100%)が「はい」と答えている。 自由意見には「保護者会で丁寧に説明してくれた」の1件が寄せられている。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	8	0	0	3
有効回答者8人全員(100%)が「はい」と答えている。 自由意見には記入がなかった。				
17. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	6	0	0	5
有効回答者6人全員(100%)が「はい」と答えている。 自由意見には記入がなかった。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリ1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 <b>7/7</b>
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している <span style="float: right;">評点(〇〇)</span>	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている <span style="float: right;">○非該当</span>
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている <span style="float: right;">○非該当</span>
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている <span style="float: right;">評点(〇〇)</span>	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている <span style="float: right;">○非該当</span>
	●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している <span style="float: right;">○非該当</span>
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している <span style="float: right;">評点(〇〇〇)</span>	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている <span style="float: right;">○非該当</span>
	●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している <span style="float: right;">○非該当</span>
	●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている <span style="float: right;">○非該当</span>
	カテゴリ1の講評	
	法人共通に目指す保育や子どもの育ちのあり方が、保護者や職員に周知されている 理念「にんげん力。育てます。」、子育て目標「センス・オブ・ワンダー」「人対人コミュニケーション」のもとで、日々の保育での素朴な生活体験と地域や社会との多様な関わりなどにより、「ケガをしない強い体を育てる」をはじめ、子どもたちの心身の「6つの力」を豊かに育むことを、法人共通に目指している。保護者にはこれらを見学・入園時に説明するほか、保護者懇談会で6つの力に寄せ、園児の生活や保育の内容・ねらい等を紹介するなど、共通理解の獲得に努めている。職員には入職時とその後の法人の各種研修などを通じ、周知が図られている。 年度の園の目標をはじめ、法人・園として目指すものの共有・確認が随時なされている 園内では年度開始前に「策定会議」を2回にわたり行い、法人が上記の理念・目標等を踏まえて毎年度定める「運営本部ミッション」と、施設長作成の事業計画をもとに、年度の園の目標と、行事その他の年間の園運営の全体像を、全職員が話し合い、決定している。また毎月行う「園会議」では、法人が随時発信する施策・方針の共有のほか、法人共通の職員の判断・行動の指針「コンピテンシー」の実践に関する月の振り返り・目標設定や、法人の保育における基本活動への理解を深める研鑽など、目指すものとあるべき姿の共有・確認が随時なされている。 意思決定と関係者への周知の仕組みを整え、チーム力と発信力の向上を目指している 園の運営・保育全般の意思決定は、経営層を担う施設長・リーダー保育者の随時の話し合いと、上記の策定会議・園会議においてなされており、議事録や毎日の朝礼・昼礼等を通じて必要な情報が周知されている。また保護者への各種の重要事項の伝達は、主にアプリでの配信によって行っている。今年度、区内の系列園の開園に伴って組織の体制が改まり、新たなチームとして歩みを始めており、メンバーたる職員それぞれが、法人の保育者として誇りを持ち、上記の理念等や園の大切にすることを、自身の言葉で内外に発信できる組織となることを目指している。	

カテゴリ-2		
2	事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行	
サブカテゴリ-1(2-1)		
	事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 <b>6/6</b>
	評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している	評点(〇〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○非該当

サブカテゴリー2(2-2)		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況
実践的な計画策定に取り組んでいる		5/5
<b>評価項目1</b> 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<b>評価項目2</b> 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<b>カテゴリー2の講評</b>		
<b>運営・重点施策等に関する年度と3か年の各計画と、各種業務の実行計画を作成している</b> 年度の事業計画に、保育内容の充実・質的向上、保護者・地域支援、人材育成、環境・省資源、保育における日課の充実の各分野で取り組むべき重点施策と、保育・行事や保健・安全、会議・研修や地域交流など、園運営全般の年間の方針・取組を定めている。また同計画の末尾に、当年度から3か年の各年度における目指す姿・重点施策と、前年度の振り返りを併記している。同計画中の保育・行事その他の各業務分野については、年間及び短期の各期間で、取組内容や目標・ねらい等を定めた実行計画が別に作成され、必要な進捗管理のもとで実施されている。		
<b>各計画の作成や園運営の参考として、保護者や職員の声を多様な方法で把握している</b> 各計画の作成や園運営の参考として、多様な視点から情報収集と課題抽出を行っている。保護者の意向は、日々の送迎時の会話やアプリ連絡帳、面談等から個別に把握するほか、定期的に設ける保護者懇談会・運営委員会も傾聴の機会としている。また法人が系列各園で行うアンケートでも、入園時及び入園後の利用に関する各質問から、意向や満足度が把握されている。職員の意向は前述の各会議や施設長との面談、日々の業務内外の会話のほか、法人がマネジメントや組織の同僚性・労働環境などの質問を設けて実施するアンケートなどから収集している。		
<b>事業環境に関する種々の情報の収集と、園の経営状況の管理の仕組みを整えている</b> 保護者や入園前見学で来園する未就園世帯との会話などから、区内・地域内の子育てや保育・教育などの傾向・ニーズを探るとともに、関連する国・自治体の施策や制度の情報を、行政の各種発信物や関連の各種報道、法人内の系列園が集う各会議や、法人制作の教育動画コンテンツなどから収集している。また要保護児童対策に関する板橋区の実務者会議に参画しており、要支援児・家庭への協力的な支援に資する行政・関係機関との連携を図っている。予算の作成・管理をはじめ、園の経営状況の把握と検討は、法人が園と随時連携して行う仕組みとなっている。		

カテゴリ-3		
3 経営における社会的責任		
サブカテゴリ-1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 <b>2/2</b>
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ-2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 <b>4/4</b>
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	<input type="radio"/> 非該当

サブカテゴリ3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 <b>5/5</b>
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
カテゴリ3の講評		
<p><b>法人の全保育者に求める種々の規範・倫理について、啓発の機会が多様に設けられている</b></p> <p>入職時の法人・園での初任者教育や、法人共通の規範「コンピテンシー」に基づく毎月の行動目標の設定と振り返り、人権擁護と虐待防止に関する法人策定のチェックリストを用いた年2回の振り返りなど、職員の不断の規範意識の向上を促す啓発がさまざまになされている。接遇・身だしなみをはじめとする社会人・職員としての各種基本のほか、コンピテンシーについては「プロになる」「保護者の立場に立つ」「危機管理」などの各分野・項目で、個別の内省をもとに望ましい行動・態度などを話し合い、法人の保育者に求められる特性を組織全体で共有している。</p> <p><b>園と家庭での児童虐待等の防止の徹底と、保護者の意向への適切な対応に努めている</b></p> <p>保育者による身体的・心理的及び性的虐待の防止については、上記に加え、保育場面での具体的な事例を挙げて子どもへの接遇を考える「虐待防止研修」、法人制作のマニュアルの確認や動画研修の視聴など、継続的な啓発による徹底を図っている。また家庭での虐待・育児不安等に関しても、関連のマニュアルを常備し、早期発見と法人との連携による対応の仕組みを整えている。苦情を含む保護者の意向は、日々の直接の交流のほか、苦情解決制度や意見申し出用のウェブフォームなど、多様な方法で把握に努め、内容に応じ、傾聴と適切な対応に取り組んでいる。</p> <p><b>地域の子育ての拠点として、情報・機能の提供や関係機関との連携に取り組んでいる</b></p> <p>ホームページや板橋区を通じた園の情報の発信のほか、園舎外周の柵での各種広報なども行っている。卒園児を含む小学生や複数の高校からの職場体験生の受け入れも積極的に行い、法人共通のマニュアルに基づいて対応している。また区の要保護児童対策地域協議会実務者会議に参画し、要支援児・家庭への対応に関する行政や小学校などとの連携に取り組んでいる。「ちきんえつぐ」と題した地域の未就園世帯向けの支援では、近隣の公園での「青空保育」や保育・食育体験、運動会や焼き芋会の開放など、多様な企画を設けており、利用の促進を課題としている。</p>		

4			カテゴリー4		
リスクマネジメント					
サブカテゴリー1(4-1)					
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる			サブカテゴリー毎の標準項目実施状況		5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる			評点(〇〇〇〇〇)		
評価	標準項目				
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている				<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている				<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している				<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる				<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる				<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー2(4-2)					
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている			サブカテゴリー毎の標準項目実施状況		4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている			評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目				
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている				<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している				<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている				<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している				<input type="radio"/> 非該当
カテゴリー4の講評					
<p>保育中の各種事故の抑制・防止を徹底すべく、研鑽や事例を踏まえた考察がなされている</p> <p>年度開始前の「キックオフミーティング」で、各種のケガや置き去り・見失い、誤嚥・誤飲や水遊び時の溺水など、保育中に起こりうる各種事故の防止や、エビペン・座薬対応をはじめとする保健面の各種手順等を、動画やロールプレイ等も交えて確認している。園の日常で発生したケガ等の事故と、その要因をはらむ種々のヒヤリハットは、直後の昼礼・会議での周知と原因・防止対策の検討により、予防と再発防止を図るとともに、毎月の「事故防止委員会」でも共有し、当月の事例を子どもの行動特性等と併せて考察するなど、改善と安全の向上につなげている。</p> <p>SIDSを含む種々の重大事故の防止や、災害・不審者対策にも取り組んでいる</p> <p>事故防止委員会では、系列他園で発生したケガ・見失いや誤嚥・誤食などの事故を自園に置き換え、対策を検討する取組も行っている。また各種設備・備品と誤嚥・誤飲防止について、法人共通の各チェックリストによる安全点検を年4回行い、職員の救命救急講習修了、園内での心肺蘇生・AED訓練の実施など、SIDSを含む子どもの心肺停止への備えにも努めている。毎月の防災訓練と法人共通のBCPの整備、年2回の不審者侵入対策訓練もなされており、活発に地域へ出かける園の活動の特性を踏まえ、戸外での不審者対策にも取り組むことが期待される。</p> <p>情報管理に関する環境と仕組みをさまざまに整え、関係者への啓発・説明も行っている</p> <p>各種情報の取り扱いについて、職員には入職時の研修・OJTや年2回の「情報セキュリティチェック」が設けられ、職場体験生等には活動前に守秘義務の厳守を求めている。また重要書類の施錠管理や端末・ソフトウェア類の各種セキュリティ設定、法人による端末類の使用状況等の管理など、情報漏洩の防止にも努め、法人共通の「保育品質マニュアル」には、情報管理とプライバシー・肖像権の保護などについて、実務上の遵守・禁止事項が詳細に定められている。保護者には入園時に、個人情報の利用目的や開示等の請求に関する説明と同意確認を行っている。</p>					

カテゴリー5		
5 職員と組織の能力向上		
サブカテゴリー1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 <b>12/12</b>
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	○非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	○非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	○非該当
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	○非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金・昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	○非該当

サブカテゴリー2(5-2)		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	3/3
組織力の向上に取り組んでいる			
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる		<input type="radio"/> 非該当
カテゴリー5の講評			
<p><b>必要な人材構成の実現のための仕組みと、職員の育成・処遇の指標が定められている</b></p> <p>職員の募集・採用と配属・異動は法人の担当部門が統括しており、採用は各種養成校や関連媒体・業者、在職者の紹介など、多様なルートで行っている。配属と異動は各施設の体制の状況に応じて行い、園内では各クラスの子ども・保護者の状況と保育の安定継続を考慮し、各人の意向も尊重して配置を決定している。また法人の給与規程上の資格等級表に、経験・職位ごとの職責が一覧化されるほか、法人内の研修等の体系が「保育品質マニュアル」中の「人材育成・研修計画」に示されており、これらが職員の長期的な育成・処遇の指標として位置づけられている。</p> <p><b>職員の能力・意欲の向上を園の課題解決にも活かし、新人の支援の仕組みも設けている</b></p> <p>常勤者には上記の等級に応じ、個人及び組織の一員としての成長目標の設定と評価を半期ごとに行うMBO(目標管理)の仕組みが設けられ、人事や賃金にも反映させ、意欲の促進にも活かしている。また前述の成長目標は、年度の事業計画中の重点施策をもとに定めることで、各人の職責の遂行と成長が、その総和として園の課題解決にも資する仕組みとなっている。新入職者には各施設での「OJT研修」を設けており、保育の援助・書類や保護者対応から安全・保健、勤怠・労務管理まで、基礎業務全般で先輩職員による指導と助言・相談対応がなされている。</p> <p><b>研鑽の仕組みが多様に整備され、職員の学びと園の保育の質的向上に活かされている</b></p> <p>法人内の研鑽の仕組みとして、新人・リーダー育成や子どもの人権・虐待、法人共通のマニュアルや「コンピテンシー」等に関する各種研修と、多彩なEラーニング教育コンテンツが整備されている。また系列各園の担当者が、保育や発達支援・保護者支援などをテーマに学び合う「子育ての質をあげる会議」では、持ち帰られた知見が園内で共有されている。毎月の園会議では直近の諸課題の検討のほか、左記のEラーニングの視聴やマニュアルの確認、研修受講後の報告などを通じ、保護者支援やリズム遊び、連絡帳の書き方等、実務的な研鑽がなされている。</p>			

カテゴリー7	
7 事業所の重要課題に対する組織的な活動	
サブカテゴリー1(7-1)	
事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている	
評価項目1 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)	
前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)	
昨年度の事業計画では、「保育内容の充実・質の向上」の分野の重点施策に、「乳児期の発達を学ぶ」「10の姿の体得」などを挙げ、2歳児までを預かる園として子どもの発達を理解し、「10の姿」と通称される、保育所保育指針における「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」についても知見を高めることを目指すこととした。限られた人員体制下で、登園時間がさまざまに異なる園児を受け入れ、行うべき日々の日課を確実に実践して心身ともに充実した1日を過ごしてもらううえでは、それぞれの保育者の知見と技術を高めることが必須となることから、法人内の「子育ての質をあげる会議」での担当者の学びをもとに、継続的な研鑽に取り組んだ。 毎月の「園会議」で、非認知能力の育成を当園・法人の保育に結びつけて考えたり、10の姿における「道徳性・規範意識の芽生え」を踏まえ、順番を守ることが難しい子どもや個別配慮が必要な子どもへの見守りと援助、必要な環境等を話し合うなどの取組を行った。また系列の東大和どろんこ保育園の園舎内の写真を共有し、環境構成などの参考としたり、子どもの成長を写真を用いて可視化し、記録する「ポートフォリオ」の作成などにも取り組んだ。	
目標の設定と取り組み	<input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	<input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	<input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評	
上記と並行し、朝のリズム体操から座禅・雑巾がけ、畑作業から散歩へといった毎日の日課を年間を通じて実施し、その日の登園人数や子どもの年齢構成などに応じ、保育者間で内容や進め方を検討した。また戸外活動では外で遊ぶことの面白さ・楽しさやさまざまな自然の事象の不思議さを伝えるとともに、子どもの意欲や興味を尊重し、活動を選択できる配慮も随時講じた。 これらと併せ、月々の園会議では、法人の「保育品質マニュアル」の確認や、関連のEラーニング教育コンテンツの視聴などを通じ、後ろからや声かけなしの抱っこ、散歩中に腕を引っ張る・無理に歩かせる等のNG行為、鼻水を拭く・眠い子を起こす等の場面では必ず声をかける等、子どもの尊厳や心情に配慮した接遇に関する組織的な啓発を随時行っている。また、子どもがしたいことを見つけたり生活を見通せる環境づくりについて話し合い、翌月にその実践の振り返りを行う取組も行っている。 今年度は法人の掲げる「原点回帰」を踏まえ、「みんな一緒にホンモノの体験をしよう」などを園目標とし、園会議では上記の日課をはじめ、法人の保育の基本活動の再理解に取り組むとともに、保護者への接遇についても研鑽の機会を設けている。	

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

昨年度の事業計画の「保育所を利用する子どもの保護者への支援」の分野では、「最高の接遇」を目指し、「保護者がいつ来園しても気持ちの良い園にする」「信頼できる保育(連絡帳の内容やお迎え対応等での言葉遣い等に気を付けいつでもどんな時でも相談しやすい環境にする)」などを重点施策とした。

そのため取組として、毎月の園会議での話し合いに関連するテーマを設け、組織的な研鑽を図った。

保護者に対しては

- ・登降園時に気持ちのよい挨拶ができていないか、子どもの家庭での様子を聴けているか
- ・降園時に連絡帳内容以外にも子どもの様子を伝えられているか、そのための職員間での情報共有が適切に行えているか

また子どもに対しては

- ・言葉かけはわかりやすく行っているか
  - ・「めちゃくちゃ」「やばい」「汚い、やらないで」等の、子どもの模範としてふさわしくない言葉遣いをしていないか
- などについて、各人が自身を省みたり、経営層から注意喚起を行ったりするなど、折に触れて啓発を行っている。

目標の設定と取り組み	<input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていない
取り組みの検証	<input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	<input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

上記に加え、保護者との毎日のコミュニケーションに利用するアプリの連絡帳・タイムライン機能における、職員の叙述の質を高めるため、法人の「保育品質マニュアル」をもとに、「体言止めは使わない」「『？』『！』を使いたい時は言葉を選んで工夫する」など、書き方について学んだり、いわゆる二重敬語など、適切な敬語表現を間違い探しによって学んだりする取組も行っている。

さまざまな研鑽は日常の保護者への接遇や連絡等において、各職員の実践に活かされるほか、経営層が各職員のタイムラインや連絡帳の入力内容を日常的に確認し、必要に応じて指導や訂正を行っている。また、来園する保護者・見学者等に常に心地よく感じてもらえるよう、園舎内及び園舎周辺の清掃も日々行っている。

保護者への接遇の質の向上や園舎内外の環境美化には、今年度も継続して取り組んでいる。また園会議での話し合いや、法人共通の規範「コンピテンシー」に基づく毎月の組織的な啓発においても、接遇・保護者支援やビジネスマナー、整理整頓などをテーマに、あるべき姿の確認や注意喚起がなされている。同様に子どもへの接遇に関しても、虐待的言動の排除を徹底するための研鑽に、継続的に取り組んでいる。

II サービス提供のプロセス項目(カテゴリ-6-1~3、6-5~6)

No.	共通評価項目	
	サブカテゴリ-1	
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
	評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している	評点(00000)
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している <span style="float:right"><input type="radio"/>非該当</span>
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている <span style="float:right"><input type="radio"/>非該当</span>
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している <span style="float:right"><input type="radio"/>非該当</span>
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の見学があった場合には、個別の状況に応じて対応している <span style="float:right"><input type="radio"/>非該当</span>
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 事業所のサービス利用が困難な場合には、理由を説明したうえで、他の相談先紹介など支援の必要に応じた対応をしている <span style="float:right"><input type="radio"/>非該当</span>
	サブカテゴリ-1の講評	
	<p>園や法人に関する情報が、インターネットから入手できる環境となっている</p> <p>法人のホームページには、法人が子育てについて大切にしている考え方を「どろんこの子育て4つの軸」「どろんこの子育てで身につく6つの力」として写真を添えて紹介している。園のホームページには、所在地・連絡先・定員・運営時間等の基本情報が掲載されるほか、園便り・食育・保健便りを公開している。また一時預かりの対象年齢・保育料等の情報も掲載し、「お問い合わせフォーム」が設けられている。区や都のサイトや『とうきょう福祉ナビゲーション』にも園の基本情報が掲載されるなど、在宅においても園情報を入手できる環境となっている。</p> <p>来訪者への資料の配布や地域活動など、園を知ってもらうための取組を実施している</p> <p>見学者や利用希望者に配付する「入園のしおり」では、園が大切にしている子どもの育ちを具体的に6つの力に分類して示し、それらを育むための具体的な活動の内容や援助の考え方・方針についても説明がなされており、災害や子どもの体調不良が発生した際の対応方法、苦情解決の仕組み、毎日の園生活で必要になる荷物など、保護者が知っておくべき実用的な情報も掲載されている。また児童館に園児募集のポスターを掲示させてもらうほか、「青空保育」の際には、地域の保護者との会話に努め、地域拠点活動「ちぎんえっぐ」の案内を行っている。</p> <p>園見学を実施し、保育の特徴を説明し、入園が難しい場合には系列園の紹介を行っている</p> <p>園見学は、電話やホームページの問い合わせフォームで受け付け、午前・午後を実施しており、個別の状況を踏まえた丁寧な説明や質問のしやすさを考慮して、1世帯ずつ行うことを基本としている。対応の際には、来園者がどのような情報を必要としているかを事前に確認したうえで、上記の入園のしおりを活用しながら、園が大切にしている保育の考え方や実際の活動の内容のほか、費用などを詳しく説明し、質問にも答えている。また来訪が難しい遠方に在住の場合には、電話やメールでの情報提供にも応じ、入園が難しい場合には系列園の紹介を行っている。</p>	

サブカテゴリー2		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	6 / 6
2	サービスの開始・終了時の対応		
<b>評価項目1</b> サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている		<b>評点(〇〇〇)</b>	
<b>評価</b>	<b>標準項目</b>		
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している		○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている		○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している		○非該当
<b>評価項目2</b> サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		<b>評点(〇〇〇)</b>	
<b>評価</b>	<b>標準項目</b>		
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している		○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している		○非該当
●あり ○なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている		○非該当
<b>サブカテゴリー2の講評</b>			
<p><b>入園前の面談で園の重要事項を説明し、同意を確認して保育開始としている</b></p> <p>入園の前の面談で、施設長が「入園のしおり」に基づき、保育理念や保育内容のほか、グループ全体で取り組む主食の自給自足の取組、発熱時の対応などについて説明し、利用料金や延長保育など、費用に関わる部分は誤解がないよう、より丁寧な説明を行うようにしている。説明の最後には「重要事項説明書」を用いて、スタッフが全項目を読み上げて保護者と一つひとつ確認している。日本語が難しい保護者には翻訳機などを用いて通訳を行うなどして、内容の理解と同意を徹底している。重要事項説明への同意を署名と捺印をもって確認し、保育開始としている。</p> <p><b>子どもの状況や家庭の育児の考え方などの情報を収集し、職員間で共有している</b></p> <p>法人専用アプリや面談票で、保護者の考え、子どもの成長・発達や個性、配慮すべき点、アレルギーの有無など、詳細な情報を収集している。食物アレルギーをもつ場合には、安全な食事の提供を行えるよう、調理スタッフ、担任、施設長による個別面談を実施して、情報の把握や状況の確認をし、園で行える配慮に関する同意を確認している。記録は一人ひとりの個人ファイルで保管しており、得られた情報を、園の会議や昼礼などで口頭伝達によって全スタッフが共有し、援助に必要ながあれば、情報はいつでも利用できるようにしている。</p> <p><b>入園直後の不安の軽減に努め、サービス終了後の関係継続に取り組んでいる</b></p> <p>入園直後には、できる限り同じ保育士が担当し、愛着形成を促すためスキンシップや観察を通じて子どもの理解に努めている。入園初日から通常時間預かりを基本とするほか、危険がある場合は保護者と連絡を取り、徐々に時間を延ばすことで負担を和らげるように配慮している。在園児の不安にも配慮し、施設長や調理員も保育補助に入って、安心できるようにしている。保育者と保護者との早期の信頼関係の構築を重視し、「3分間対応」を基本に丁寧な対話を心がけている。卒園後も運動会などに卒園児や家族を招待するなど、関係の継続を大切にしている。</p>			

サブカテゴリ3		
3	個別状況の記録と計画策定	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 <b>13/13</b>
<b>評価項目1</b> 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している		<b>評点(000)</b>
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	<input type="radio"/> 非該当
<b>評価項目2</b> 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している		<b>評点(00000)</b>
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況(保護者の意向を含む)の変化に即して、保育の過程を踏まえて作成、見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当

<b>評価項目3</b> 子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している		<b>評点(〇〇)</b>
<b>評価</b>	<b>標準項目</b>	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	<input type="radio"/> 非該当
<b>評価項目4</b> 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		<b>評点(〇〇〇)</b>
<b>評価</b>	<b>標準項目</b>	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄る等話し合う機会を設けている	<input type="radio"/> 非該当
<b>サブカテゴリー3の講評</b>		
<p><b>家庭との対話を重ねながら、個々の子どもの姿に応じた保育につなげている</b></p> <p>入園の際には保護者に記入してもらった内容をもとに、子どもの生活状況や家族の状況、連絡先などを把握している。子どもの発達の状況についてはICTシステムを利用して個別記録を残している。毎月チェックリスト形式でできるようになったことの確認を行うのと同時に、コメントで個別の状況を残している。入園時及びその後は必要に応じて個人面談を実施し、家庭での子どもの様子を聴き取りながら、保育の内容に反映している。配慮の必要な子どもや家庭についてのケース会議を行い、関係機関と速やかに連携が図れるようにしている。</p> <p><b>個別の計画と省察を行うことで、子どもへの理解を深め、支援内容に活かしている</b></p> <p>指導計画は、全体的な計画をもとに、年間・月間・週間の各計画を策定し、年間計画は1年を4期に分けて省察を行っている。0～2歳児のみの乳児園でもあるので、全年齢で個別の計画も月ごとに策定し、一人ひとりの子どもの姿をとらえ、保育についての振り返りと次月の計画を行っている。年2回の保護者懇談会では、開催月までの保育内容と子どもの育ちに関する内容と、次回の懇談会までの保育のねらいと目標について資料を配付して、保護者の理解を深めている。日々の記録は保育日誌を作成し、活動記録や健康面の記録を行っている。</p> <p><b>保護者に日々の生活を知らせ、職員間の連携を図ることで保育の質を高めている</b></p> <p>ICTシステムのタイムライン機能を利用して、子どもの日中の活動の様子や、昼食・おやつ・離乳食の写真を毎日配信し、タイムリーに子どもたちの生活の状況を保護者にも見てもらえるようにしている。日々の職員間の共有事項や活動のねらいは、毎日の朝礼で確認し合っている。職員全員が参加する園会議と、クラス担任が参加する会議をそれぞれ月1回開催し、園会議では法人内の会議の内容共有や事故防止について、施設長からの連絡事項などを共有する時間とし、担任会議では子どもや保護者についての報告、行事の確認などを行っている。</p>		

サブカテゴリー5		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	5/5
<b>評価項目1</b> 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部和やりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得ようとしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<b>評価項目2</b> サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー5の講評		
<p><b>個人情報の保護やプライバシーに配慮した運営を行い、保護者にも共有を図っている</b></p> <p>個人情報の取り扱いについて、入園時に保護者に確認し、承諾を得ている。子どもが着用する名札は裏返して利用したり、サブスクサービスを含むおむつの管理表は保護者や見学者の目にも触れる場所に掲示しているため、個人名は伏せてマークで示すことで、プライバシーに配慮しながら職員間で把握できるようにしている。散歩後の着替えはパーティションの奥で行い、子ども自身や保護者の意識も向上できるよう、懇談会で身体の大事な部分や自分を守る大切さについて話し、家庭とともに子どもの尊重や人権への配慮に取り組めるよう対応を図っている。</p> <p><b>子どもの呼び方、見守り方など、日々の保育における一人ひとりの尊重に取り組んでいる</b></p> <p>子どもの名前を呼ぶ際は「さん」などの敬称をつけることとし、呼び捨てやあだ名の使用はしないことを基本としている。また子どもが興味を示した活動を必要最低限の手助けで見守るなど、主体性を大切に保育を心がけている。子どもの生体リズムに応じた睡眠や食事の個別対応や、給食会議での咀嚼状況や好き嫌いなどの情報共有を通じて、個々の状況に合わせた援助を行っている。子ども同士のトラブルでは双方の気持ちに共感し、特別な事情がある家庭には悩みを聴くなど、保護者や子どもの気持ちに寄り添った対応を心がけている。</p> <p><b>虐待防止への点検と学びの機会を設け、早期発見と関係機関との連携の体制を整えている</b></p> <p>すべてのスタッフが半年に一度「人権チェック」を実施し、日頃の子どもの関わりを振り返ることで、人権意識の向上と自戒・自省を促すとともに、虐待防止のための研修を定期的実施して、マニュアルの内容を確認し子どもの人権や虐待防止に関する理解を深めている。また子どもや保護者の視診や送迎時の様子、子どもの園での姿にいつもと異なる状況が見られる場合には、スタッフ間で共有することとし、関係機関への通報・相談の体制も整えている。法人の指示のもとで自治体や子ども家庭支援センターと連携し、専門的な意見を共有している。</p>		

サブカテゴリー6		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況
6	事業所業務の標準化	5/5
<b>評価項目1</b> 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	<input type="radio"/> 非該当
<b>評価項目2</b> サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	<input type="radio"/> 非該当
<b>サブカテゴリー6の講評</b>		
マニュアルやフローチャート等を整え、必要な情報を利用できるようにしている 法人共通の「保育運営マニュアル」に保育所運営の基本を定め、「保育品質マニュアル」には安全確保や保育内容に関する標準が示されている。保育品質マニュアルは全スタッフに配付されており、必要な時に疑問点をすぐに調べられるようになっている。また事務室や保育室には、ケガ・病気・衛生管理などの各種緊急時対応フローチャートを掲示し、常に確認できるようにするほか、園外のハザードマップや予防接種のスケジュールなど、安全と健康に関する情報を整理し、業務に必要な情報を、必要な場面で確認し、利用できるようにしている。		
定期点検や内部監査を通じて、マニュアルに基づく安全管理を行っている マニュアルに基づく「事故防止チェックリスト」や「設備点検チェックリスト」を使い、実施漏れがないかを定期的に確かめるほか、法人の内部監査では、保育実践や書類管理、安全対策等がマニュアル通りに実施されているかを確認している。保育室にフローチャートを掲示するなど、マニュアルをいつでも参照できる環境とするほか、系列園合同会議の議事録を回覧し、閲覧後に押印する仕組みとして、重要な情報の共有を徹底している。年度末の「キックオフミーティング」では緊急対応時のフローチャートなどを確認し、基本事項の徹底を図っている。		
保護者の意見を反映し、毎年改訂や会議によって計画とサービスの改善に努めている マニュアルは毎年4月に改訂版が発行され、最新の行政通知やガイドラインの内容や施設長から提出された改善案を反映している。毎年9月頃に実施する利用者アンケートの結果や、保護者からの「意見・提案シート」の内容を貴重な意見として受けとめ、アンケート結果を踏まえ、全スタッフで話し合いを行い、サービスの見直しや改善策の検討を実行している。また毎年3月の計画作りの会議で、発達や子どもに体験させたい内容を考慮した年間方針を、スタッフからの意見を集めて、策定会議を実施して決定し、保育の質の向上につなげている。		

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

		サブカテゴリー4	
サービスの実施項目		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	35 / 35
1	評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている	評点(00000)・非該当1	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている	<input type="radio"/> 非該当	
<input type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携を図っている	<input checked="" type="radio"/> 非該当	
評価項目1の講評			
<p>生活に根差した環境構成の工夫により、一人ひとりの興味・関心が広がるようにしている</p> <p>保育室内は異年齢でも安全面と成長・発達に見合った環境となるよう、遊びのコーナー分けしたり、定期的に危険箇所の確認を行うなどして、一人ひとりの子どもが楽しく遊べるように配慮している。木製の汽車の遊具は台に載せ、積み木などと組み合わせて遊べるようにしている。また、食事室には調理スタッフが工夫した食材に関する掲示や、自分たちで作った味噌・梅干しが子どもの見られる場所に置いてあったり、エントランス前にプランターを置いたり、生活と密着した形で子どもたちの食への興味・関心の芽が育つように工夫している。</p> <p>子どもと職員が、多様な文化や年齢差の中で互いに尊重し合えるように関わっている</p> <p>異年齢での生活を通してさまざまな月齢・年齢の子どもの様子を見たり、いろいろな気持ちを経験することを通して、一人ひとりの違いを自然と尊重し合うように保育を進めている。また、卒園児の保護者である外国籍の方を招いて中国語の歌や遊びを教えてもらい、日本語とは異なる文化に触れるなど、楽しみながら子どもの経験が広がるようにしている。職員側も一人ひとりの子どもを尊重できるよう、虐待防止研修の動画を視聴後に、法人の人権チェックリストを年に2回確認するなど、継続した学びの機会と、互いに尊重し合う関係づくりに努めている。</p> <p>ケース会議や外部との連携、懇談会など、子どもや保護者への寄り添いに努めている</p> <p>概ね月1回のケース会議を実施し、子どもの様子や保護者支援などについて職員間で確認をし、記録を残している。すべての職員が同じ対応ができるように、会議に参加していない職員にも内容を回覧している。また、施設長が区の要保護児童対策地域協議会の実務者会議に参加し、行政機関などと速やかに連携ができるようにしている。かみつきなどのトラブルについて、保護者懇談会では、発達段階のプロセスや家庭でも採り入れられる対応の工夫などを資料とともに説明し、子どもの気持ちに寄り添った対応ができるように情報共有を図っている。</p>			

2 評価項目2 子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2の講評		
<p><b>家庭とコミュニケーションを活かしながら、子どもの1日を丁寧に支えている</b> 登園時には家庭での子どもの様子を聴き取るとともに、アプリの連絡帳機能も活用して生活の様子を把握しており、受け入れの際にはケガの有無も確認している。またお迎え時には保護者への3分間の対応を原則とし、子どもの様子を個別のエピソードとともに伝えるよう努めるほか、エントランスには写真入りの「ポートフォリオ」を掲示し、お迎えを待つ間などに見てもらっている。「お迎え伝達ノート」で職員同士の情報共有を図り、職員体制に入れ替わりがあっても、3分間を基本として各家庭とコミュニケーションが取れるようにしている。</p> <p><b>主体的に生活に関する経験が積めるように工夫し、身近の自立への支援につなげている</b> 食事室では子どもが取り出しやすいエプロン入れを用意し、自分でできる子どもは手洗いうがい後にエプロンを取って、椅子を運んで好きな場所を選んで食べる、という流れを作っている。トイレトレーニングは個々の発達の状況に合わせて行うほか、2歳児を中心に、興味の高まっている子は1歳児でも便器に座ってみるなど、子ども一人ひとりの意欲を尊重して進めている。保護者懇談会の際にも園での考え方を伝えるなどして、家庭でも同じペースで取り組めるように連携を図っている。2歳児では歯ブラシを持参してもらい、食事後の歯磨き指導を行っている。</p> <p><b>無理のない生活リズムを大切に、子どもの休息と活動の調整を行っている</b> 生活リズムが整うまでは、必要に応じて午前寝をしたり、夕方に疲労の見られる場合には布団を出したり乳児室の奥の静かなスペースで横になるなど、子どもに合わせた休息が取れるように対応している。午睡時間は一斉に設けるとともに、体力がついてきて寝つけない子には睡眠を、無理強いせずに身体を休める時間としてゆっくり過ごしてもらったり、早く目覚めてしまった子は別室で遊べるような工夫も図っている。家庭から、睡眠や休息に関する要望がある場合には、子どもの様子に配慮しつつ、できるだけ要望に沿った対応ができるようにしている。</p>		

3 評価項目3 日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している		評点(〇〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが人と関わる力を養えるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉(発声や喃語を含む)や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	○非該当
●あり ○なし	5. 子どもの心身の発達が促されるよう、戸外・園外活動(外気浴を含む)を実施している	○非該当
●あり ○なし	6. 生活や遊びを通して、子どもが自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	○非該当
評価項目3の講評		
<p><b>子どもがさまざまな遊びに合わせて集中できるよう、ゾーンに分けて環境を整えている</b></p> <p>保育室では遊びをいくつかのゾーンに分けて、動と静の活動にじっくり遊べるように環境を整え、2歳児などより細かい手作業や遊びを楽しみたい場合には食事以外の時間帯に食事室のテーブルを利用して、細かなピースのパズルやはさみを使った活動などにも集中して取り組めるよう、環境を分けている。子どもへの援助や環境構成については、法人全体での「子育ての質をあげる会議」に園代表の保育者が参加し、各園の取組や子どもたちのエピソード、研究したテーマを発表し合い、自園での環境の見直しや子どもへの関わり方の向上につなげている。</p> <p><b>表情・歌・絵本・制作など多様な表現活動を通して、心の育ちを促している</b></p> <p>言葉によるやり取りがまだ難しい年齢であっても、泣きや表情などから子どもの気持ちに気づけるよう、保育者の育成にも力を入れている。徐々に言葉での伝え合いも増えてくる1・2歳児では、丁寧な言葉かけや歌、絵本などで語彙が広がるように関わっている。毎日の日課として季節の歌を採り入れたり、リズム遊びを楽しむ時間を設けるなどして、身体全体で表現する楽しさを味わっている。毎月の制作は子どもの興味をもとにテーマを設定して取り組み、保護者からも見える位置にポケットを吊り下げて、季節感を楽しめるようにしている。</p> <p><b>戸外活動を工夫し、四季の変化を感じながら子どもの体験の幅を広げている</b></p> <p>園庭のない園であるため、午前・午後にできる限り戸外に出かけ、歩く距離も徐々に伸ばせるように経験を積んでいる。散歩先は公園のほか、「商店街ツアー」や小学校との交流など、さまざまな社会資源を活かして子どもの体験の幅を広げている。散歩先では地域の親子にも一緒に楽しんでもらえる「青空保育」を実施し、四季の変化を感じながら楽しく過ごしている。また、2歳児クラスではバスに乗って動物園に行き、日頃の生き物の世話から、より興味が深まる経験となっている。夏場はエントランス前で水遊びも楽しみ、季節感を味わっている。</p>		

4 評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当
評価項目4の講評		
<p>年度ごとの子どもの姿に合わせ、意欲を高める行事を職員で話し合って計画している</p> <p>年間行事は固定的なものではなく、年度ごとの子どもの様子をもとに行事の実施を話し合い、子どもの意欲や興味がより高まるように内容を考え直している。行事の内容は子どもたちが日頃取り組んでいるものや好きなテーマ・モチーフを盛り込んで計画し、子どもの育ちを保護者にも見てもらえるように工夫している。例えば運動会では、2歳児が生活の中で散歩前に靴下を履いて帽子をかぶって身支度をする流れを採り入れたリレーを行ったり、0歳児のハイハイレースなど、年齢ごとに無理なく楽しめる内容を職員で話し合って決めている。</p> <p>行事の経験が、子どもの自然な関わりや、季節感や文化を楽しく学べる機会となっている</p> <p>日頃の取組の延長として行事内容を決めており、子ども同士の関わりについても、普段通りの様子を見てもらうことを大切にしている。季節の制作は散歩先で見つけたアジサイや、スーパーに飾ってあった七夕飾りをテーマに制作に取り組むなど、生活に密着したところで季節感や伝統文化を知ることにつなげている。保護者参加の行事では園外の会場を借りる場合もあり、いつもと違う環境に緊張したり泣いてしまうこともあるが、ありのままの子どもを受けとめ、子どもたちの意欲や自己肯定感につながるよう工夫を重ねている。</p> <p>保護者が行事に参加しやすい工夫を行い、家庭同士のつながりも支援している</p> <p>保護者参加の行事については年間行事スケジュールをアプリでも配信し、いつでも確認できるようにしているほか、年度前半の保護者懇談会の資料には次回の開催予定日を記載するなど、保護者が参加しやすいように発信の工夫を図っている。個別に好きなスケジュールが選べる保育参加も実施しており、普段の生活や食事の様子などを見てもらっている。今年度は運動会で家庭ごとにレジャーシートを敷いて弁当を食べる時間も設け、お迎え時間が異なると普段あまり会わない家庭同士の交流にもつながり、保護者からも好評が寄せられている。</p>		

5 評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	○非該当
評価項目5の講評		
<p>静かに過ごす場所と遊び込む場所を分け、子どもが負担なく過ごせるようにしている</p> <p>保育室内にはマット敷きのコーナーや絵本コーナーなど、ゆっくり過ごせるスペースも設けており、個々の状況に合わせてリラックスできる環境づくりに努めている。また、乳児室の奥のスペースにもベビーベッドやベビーラックを設置し、低月齢の子どもなど、必要に応じて一人ひとりのリズムで休息が取りやすいように関わっている。静かに休める場所と、自由に遊び込める場所を分けることにより、それぞれの子どもに負担が行くことなく過ごせるようにしている。</p> <p>異年齢の生活を全職員で見守り、夕方以降の保育でも安心して関わられるようにしている</p> <p>保育室内では遊びのコーナー分けをすることで、個々に好きな遊びに集中して取り組めるよう、環境の工夫を図っている。子どもの人数が少なくなる夕方の保育や延長保育の時間帯には、園に残っている子どもが寂しさや不安を感じることはないよう、保育者はよりゆったりとした声かけやスキンシップを心がけ、安心して保護者のお迎えを待ちながら過ごせるよう援助している。また普段から異年齢の生活を職員全体で見る体制としており、人見知りの出やすい0歳児などでも、どの職員が対応しても混乱することなくお迎えまでの間を過ごせる環境となっている。</p>		

6 評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動、保護者や地域の多様な関係者との連携等)を行っている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目6の講評		
<p>調理や環境の工夫を通して、子どもが意欲的かつ安心して食べられるようにしている</p> <p>毎月1回、給食運営会議を行い、調理スタッフと施設長、保育スタッフが参加し、子どもの喫食の状況を確認し合ったり、食育活動の確認や振り返りを行ったりするほか、食具の出し方や椅子・テーブルの調節など、子どもの様子を踏まえた食事の提供について検討している。毎日の給食は散歩などの活動後、保育者が個別に介助しながら提供し、自分でできる子どもは手洗い・うがいと着替えを済ませ、エプロンを身に着けてから椅子を運んで自由な場所で着席し、個別によそわれた皿やお碗を自分で選んで自席まで運び、個々のタイミングで食べ始めている。</p> <p>マニュアルやロールプレイの機会も活用し、除去食や離乳食の管理につなげている</p> <p>食物アレルギーによる除去食の対応が必要な場合は、医師の診断をもとに「除去食申請書」を提出してもらい、除去品目及び既往歴やエピペン使用の有無などを確認している。除去食提供の流れはマニュアルに定めるとともに、年度替わりの「キックオフミーティング」の際に、ロールプレイ形式で流れを確認し合っている。また、離乳食期の子どものためには「離乳食開始にあたっての確認表」を利用して、家庭で食べたことがある食材かどうかを確認し、随時連絡帳など追加のある食材についても、確認表に転記して最新の状況を把握できるようにしている。</p> <p>子どもが楽しめる工程での調理体験や商店街との交流を通し、食への興味を育てている</p> <p>年間食育計画の策定会議で計画した内容をもとに、季節の食材や畑の活動とつながりを持った食育活動を実施している。ピザ作り・フルーツポンチ作り・きのこごはん作りなど、子どもが楽しめる工程で行っており、商店街の花屋で苗を購入したり、気候によってプランター栽培の野菜がうまく収穫できない場合には近くの八百屋で野菜を購入するなど、地域との交流も図りながら、柔軟に食育活動が進められるようにしている。食育活動の様子は写真入りの掲示物で保護者にも知らせ、併せてレシピを紹介するなどして、情報提供を図っている。</p>		

7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 子どもの入退所により環境に変化がある場合には、入所している子どもの不安やストレスが軽減されるよう配慮している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目7の講評		
<p><b>子どもの健康状態の把握に努め、緊急時の際の体制を整えている</b></p> <p>子どもの健康状態の把握と体調管理を毎日行うほか、嘱託医と密に連携し、年2回の健康診断に加え、健康面で気になることがあればそのつど相談できる体制を整えている。登園時には、子どもの顔色や様子を目で見て確認するほか、保護者から家での様子を聴き取っている。与薬の対応は、保護者に所定の依頼票へ必要事項を書いてもらい、1回分を預かるなど、定められた手続きで対応している。事故やケガが起きた際は、「ケガ事故発生時対応フローチャート」に基づいて対応を決定し、救急車の手配や本部への連絡・相談を速やかに行うこととしている。</p> <p><b>感染症予防と安全確保への体制を整え、対策を講じている</b></p> <p>感染症の罹患をできるかぎり防ぐことができるよう、戸外活動後や食事前の手洗い・うがいの指導の徹底に努め、流行時期前から習慣化を図っている。定期的な水分補給や、子どもの状態を踏まえた休息の確保に取り組むほか、室内の衛生管理や施設設備の安全管理の仕組みも整え、マニュアルに則り、チェックリストなども活用して、清潔で安全な環境保持に取り組んでいる。乳幼児突然死症候群(SIDS)対策として、午睡中は5分おきに姿勢や呼吸、心臓の音、体温などを細かく確認し、アプリに記録している。</p> <p><b>生活習慣の定着や人権に配慮した援助、交通安全指導を行い、家庭との連携に努めている</b></p> <p>手洗いや鼻かみなど、健康を保持するための生活習慣が身につくよう、日々の保育の中で一緒に行ったり、声かけをしたりするなどの援助を行っている。排せつや着替えの際の援助から性教育が始まるとの考えに基づき、人権に配慮した援助を心がけ、保護者にもその考えを伝えている。交通安全教室では、紙芝居やペープサート(紙人形劇)を用いて交通ルールや身近な危険について教えている。季節ごとの感染症等の情報は保健便りで保護者に提供するほか、園内で感染症が発生した場合には掲示やアプリで速やかに状況を伝えるなど、家庭との連携に努めている。</p>		

8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(00000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目8の講評		
<p><b>保護者の就労と育児の両立、養育力の向上への支援を行っている</b>                  保護者の就労状況や家庭の事情に配慮し、保護者の都合による急な利用時間や利用日の変更には柔軟に対応しており、利用者調査では高い満足度が示されている。日常的な情報交換や連絡帳でのやり取りを通して、育児の悩みをいつでも相談できるようにしている。希望に応じて随時面談を行い、発達の特性や食物アレルギー対応など個別の支援に取り組んでいる。離乳食では調理職員が食形態や進め方を説明し、不安の軽減につなげ、保育参加や参観では、集団での姿を共有し、家庭での関わりに活かせるよう支援している。</p> <p><b>送迎時の対話や連絡帳、懇談会を通して保護者との信頼関係の構築に努めている</b>                  保護者が安心して子どもを預けられるよう、送迎時の保護者との丁寧な対話を大切に、連絡帳では健康状態や活動の様子を具体的に共有し、家庭での気づきも受けとめながら、共通認識を深められるよう努めている。希望があれば随時面談を行い、個別の状況や不安に寄り添い、保護者懇談会では半年間の成長や今後の方針を伝え、園の活動をまとめた「ポートフォリオ」を掲示し、子どもの姿が視覚的に伝わるよう工夫している。個別の配慮が必要な家庭への支援は、情報の秘匿性に考慮したうえで、スタッフ間で情報を共有して、対応にあたっている。</p> <p><b>保護者が孤立せず、安心して子育てに向き合えるよう支援に努めている</b>                  保護者同士がつながり合えるよう、年2回保護者懇談会を実施し、子どもの成長や生活の様子を共有しながら、育児の悩みや意見を互いに語り合える場をつくっている。懇談会ではスタッフが進行を支え、保護者同士の関係が自然に深まるよう配慮している。運動会後には希望者と昼食を囲む時間を設け、行事の振り返りや子どもへのまなざしを共有する機会としている。園での活動をまとめたポートフォリオや写真の掲示は、保護者同士の会話のきっかけとなり、家庭とは異なる子どもの姿を知る機会にもつながっている。</p>		

9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○非該当
●あり ○なし	2. 園の行事に地域の人への参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○非該当
評価項目9の講評		
<p>日々の園外でのさまざまな活動を通じた体験が子どもたちの興味の芽生えを促している</p> <p>園の目標を「みんな一緒にホンモノの体験をしよう」と定め、地域へ出ていく活動を重視し、商店街訪問や公園での遊び、畑での作業など、多様な体験を通して子どもの興味や関心が広がるようにしている。商店街では店員と客のやり取りを間近に見たり、たい焼きやたこ焼きの匂いを感じたりするほか、現金のやり取りを体験するなど、生活に根差した学びも得られている。畑では苗植えや水やりに取り組み、野菜に触れており、ケチャップや味噌を作る食育活動へと発展している。散歩では虫探しや草花の観察から遊びが広がり、拾った素材を制作に活かしている。</p> <p>地域の人など、子どもがスタッフ以外の多様な人と関わる機会を設けている</p> <p>地域の人など、子どもがスタッフ以外の多様な人と関わる機会を設けている。散歩先では地域の方と挨拶を交わすほか、「青空保育」では地域の公園に出かけ、地域の保護者や子どもたちと一緒に、絵本の読み聞かせのほか、虫探しやボール遊び、シャボン玉などを楽しんでいる。また高齢者施設の周囲を散歩して挨拶を交わしたり、地域行事に参加したりしており、世代を超えた関わりを経験している。卒園児の保護者による中国語の歌や挨拶に触れる機会もあり、子どもたちの多文化理解の芽生えにもつながっている。</p>		

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	1-1-1	事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している
タイトル①	法人共通の保育の重要エッセンスの再理解に、組織全体で取り組んでいる	
内容①	同区内の新園開設に伴い、今年度は組織の体制が改まり、チームとして成熟途上にある。現場の中核を若手の職員が担う組織の状況も踏まえ、法人の年度の研鑽テーマの一つである「原点回帰」のもとで、泥・水遊びや「商店街ツアー」、食事・畑仕事や歌・伝承遊びなど、法人の保育における基本活動の目的や意義の再理解に取り組んでいる。法人の理念や園が大切にすることを、各職員がより深く理解し、主体的に創意工夫したり、自身の言葉で来園者などに語ったりできる組織づくりを目指し、月々の「園会議」での話し合いを通じて継続的に行われている。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-6-1	手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている
タイトル②	同じ基準で確実に保育実践できるよう、統一マニュアルや各種手順書等を整備している	
内容②	業務の基準を明確にし、それを保育現場で確実に実践できるよう多面的な仕組みを整えている。法人共通の「保育品質マニュアル」を全スタッフに配付し、内容を統一して理解できるようにし、怪我や病気、衛生管理、緊急時対応などを示したフローチャートを保育室や事務室に常備して、必要な時に即座に参照できるようにしている。事故防止や設備点検のチェックリストを活用し、定められた手順に沿って安全管理が行える体制も整えている。園外活動のハザードマップや衛生管理の付表、与薬や嘔吐処理などの細則も視覚的に確認しやすい形で配置している。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-6-2	サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている
タイトル③	系列園との交流が職員の学びや子どもの経験を深め、質の向上にも活かされている	
内容③	系列園との交流が職員・子どもそれぞれで積極的に行われており、職員の学びや保育の広がりにつながっている。「子育ての質をあげる会議」で学んだ他園での取組を参考に、自園の保育内容の見直しにつなげたり、他園スタッフが手がけた手作りおもちゃを提供したりして、質の向上につなげている。「食育会議」では、子どもの食に関する勉強会や調理方法の質疑応答などの時間を設け、調理技術や子どもへの食育指導などの質の向上につなげている。子どもたちも近くの系列園に行き、日々の生活の中で土に触れたり、コンポストの活動に親しんだりしている。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	毎月の食育活動は広がりのある内容にし、食事室への掲示なども合わせて、季節や食材への関心を高めている
	内容	毎日その日の給食に使用する野菜など食材に触れたり、洗ったり、皮むきをしたりする経験を通して、食事になる前の食材の様子を知ったり、興味を持つきっかけにつながっている。毎月行う食育活動は単発で終わらずに広がりを持たせ、手作り味噌の発酵の過程を写真で掲示したり、できあがった味噌で味噌汁作りを計画するなど、食材が変化の様子を見たり味わったりと、五感を使って楽しむ経験を積んでいる。食事室には、調理スタッフが工夫を凝らした掲示がなされ、実物大の魚や、季節の野菜に関する掲示を楽しみながら、食への関心を育んでいる。
2	タイトル	異年齢での関わりを通して子ども同士の思いやりを育んだり、年齢に関わらず多様な経験を積める工夫がなされている
	内容	無理のない範囲で0～2歳児の異年齢での生活を基本として過ごしており、日常的に年上の子の様子を見たり、年下の子に優しく接するなどの関わりが生まれている。職員も担当学年の子どもだけでなく、全体ですべての子ども達を見る体制とし、人見知りなどしやすい月齢の子どもでも、戸惑うことなく過ごしている。遊びだけでなく、食事や着脱などの生活習慣についても、周りの子の様子を見ることで自分でも挑戦する意欲につながっている。毎日の日課としてコンポストに天日干した野菜くずをちぎって入れるなど、年齢で制限せず多様な経験を積んでいる。
3	タイトル	小規模の園の特性を活かし、細やかで温かみのある発達援助と保護者支援の提供に取り組んでいる
	内容	日々の丁寧なコミュニケーションを基盤に、保護者が安心して相談できる雰囲気づくりに努めている。送迎時の情報交換や連絡帳でのやり取りに加え、随時の面談によって、一人ひとりの悩みや不安に寄り添い、発達の特性や食物アレルギー対応など個別の支援につなげている。保護者懇談会では成長の報告や保育方針を伝え、保育参加や参観では、集団での姿や園の雰囲気を直接見てもらうなど、保護者と子どもの成長の共有に努めている。また食育・保健便りの配信を通じて育児の参考となる情報を提供し、個別の配慮が必要な家庭との連携にも注力している。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	園の保育や食の営みを地域に還元する「ちきんえっぐ」を、より多くの子育て家庭に発信し、参加の間口を広げる工夫に取り組まれない
	内容	園の保育や食の営みを地域の子育て家庭にも還元すべく、親子での食育・保育体験を提供する子育てサロン、在園児と一緒に楽しむ調理体験や室内活動、近隣の公園で遊ぶ「青空保育」を実施している。これらの地域支援「ちきんえっぐ」は主にホームページで広報を行っているが、今のところ活発な参加が得られていない。入園前見学との併催として参加の利便を高めたり、園児の「商店街ツアー」でも日頃親しんでいる地元のコミュニティに、広報の協力を得るべくアプローチするなど、間口を広げ、利用の促進を図る工夫にも一考の余地はあるかと思われる。
2	タイトル	行事後の感想収集では、その後の検証や次回・次年度に向けた見直しに活かすことを念頭に置いた質問の設定等も有効かと思われる
	内容	保護者参加の行事の実施後には、保護者に感想を寄せてもらうよう呼びかけ、アプリ連絡帳で自由に意見を募る形で、各家庭の意向を把握している。感想収集は各行事の成否を保護者の声から検証したり、次回・次年度に向けた企画の見直しに活かすことも目的として行われており、その目的に合う保護者の気づきや要望を収集するうえでは、集めたい内容に沿った呼びかけ方や質問の設定とすることも有効かと思われる。それぞれの行事のねらい等も踏まえながら、振り返りの参考となる声を効果的に収集する工夫に取り組んでみてはどうか。
3	タイトル	現場主体の園運営の文化を、事業計画の管理と実行にも活かし、取組と成果の質の向上や、チームとしての活力の促進につなげられない
	内容	毎年度末の「策定会議」で、施設長作成の次年度の事業計画をもとに職員が話し合い、園目標を設定したり、園児にとって真に必要なと考える体験を各人が提案し、その集約を年間の行事予定に反映させる仕組みがある。園運営への職員の能動的な参画を促すこれらの工夫は、各人の当事者意識や組織のエンゲージメントの向上にも寄与していると考えられる。年度の各分野の重点施策を定める事業計画についても、同様に現場との協同のもとで期中の進捗確認や年度末の振り返りを行い、取組や成果の質を高め、チームとしての活力促進につなげることを期待したい。